

環境に配慮するため
FSC®森林認証紙を
使用しています。

第4回理事会を開催

等について
園芸博覧会の現状
○2027年国際
た。
の回答が報告され
業務執行理事から
け」などがあり、
の先生への働きか
地法に関する顧問
について、「工場立
今後の協会運営に
強に資する取組、
は、主に「会員増
会への要望事項
ら」された。理事
開催したことがか
う）された。理事

の調整を行っている」と報告された。

○日比谷公園ガーデニングショー2025について
開催期間は、10月18日～26日の9日間と報告があり、協会の出展については、4日間（10月23日～26日）で行うことと決定された。

【その他】
○2026年版カレンダーについて
売価について協議した結果、据え置くことと承された（昨年版と同額 会員600円・外部700円）。

中村幸人先生から説明を受ける植生管理士の方々

と題して行った今回のセミナーは、植生管理士はもちろん、当協会に属していない樹木医、造園業、設計事務所、アロマセラピストなど多くの方に参加いただき参加者は過去最高の45人でした。

明治神宮の植生を解説する鈴木伸一先生

午前は明治神宮で参加者のレベルに合わせた班分けをして各班ごとに講師と見て回りました。人の手によって作られた明治神宮の杜がどのように成長しているか、そしてその緑から策しながら勉強しました。

午後は目黒に移動して国立科学博物館付属自然教育園での講習を行いました。この自然教育園は都会にありながら古くから都会の森として存在していて、都内でも16番目の広さを誇る緑地です。園内には林、草地、池などもあり様々な植生を観察しました。自然教育園では人工的な手入れを最小限にして本来の自然の姿が

ながらとてもいい環境で学ぶことが出来ました。

植生調査委員会では今後も皆さんに植生を学んでもたただけるようなセミナーを開催していきますので興味を持たれた方は是非ご参加お待ちしております。

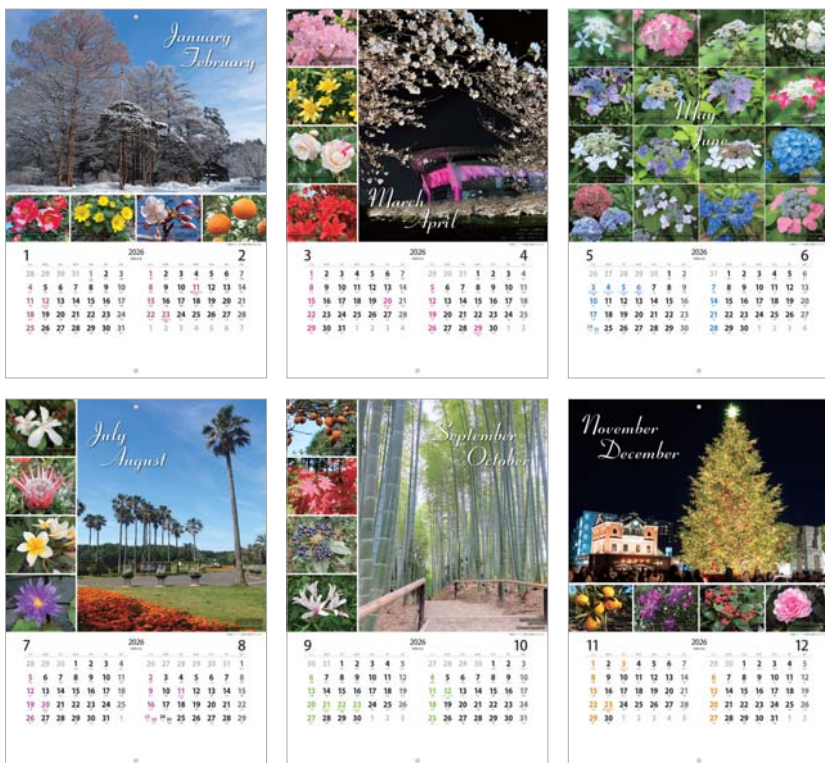


分かりやすい説明を心がける 西野文貴先生

2026年版
協会オリジナルカレンダー販売

協会カレンダー委員会が、写真撮影や解説等、制作に1年間手掛けたオリジナルカレンダーです。飾りやすいA4版（見開きA3版）に変更しました。カレンダーの内容が一部変更される場合もあります。

申込締切日：9月16日(火)まで
 申し込み用紙を同封しています



分かりやすい説明を心がける西野文貴先生

会 場 都ホテル京都八条（京都府）

会 場 ホテルヴィスキオ尼崎
(兵庫県)

会 場 都ホテル京都八条
(京都府)

会 場 大阪ガーデンパレス
(大阪府)

コンテナ部会

令和7年度研修会報告

生産・研修委員会委員長 川村 和泉
(南村山林緑化農園(秋田県))



勉強会の参加者風景

コンテナ部会では令和7年度研修会を7月9日〜10日に大阪府で開催しました。

主な内容はヨーロッパの緑化植物に関する講演会、うめきた地区再開発地域の視察、大阪・関西万博／EXPO2025の視察です。

9日の講演会はドイツ人のハインリッヒ・ローシング博士を講師にお招きし行われました。講師はヨーロッパの様々な苗木生産グループと関わり、樹木生産での効率化・機械化に取り組むなど、苗木生産の革新



講師のハインリッヒ・ローシング博士

ること、②オランダが安価な穀物生産を行わず園芸作物のような付加価値の高い農作物を生産する理由、③ドイツ国内の苗木生産者の

後継者問題などでした。日本でも身近な問題が各国の共通の課題であるように感じられました。

うめきた再開発地区の視察では、うめきた公園を中心とした周辺地域を見学しました。大規模ターミナル駅直結の都市型公園としては世界最大規模となる公園を中心とした、うめきた2期プロジェクト開発地区は「グラングリーン大阪」の名称で2024年9月に先行して、まちびらきをしています。2027年全面開業を



熱弁ふるう博士と通訳の池田氏

目指して現在も開発継続中です。

「グラングリーン大阪」には樹木が1600本以上と在来種を中心とした花木が植栽されているとのこと。近年の都市再開発では、緑化に関して、緑はもたない、お金をうまないと批判的な意見が挙がることがあるようですが、グラングリーン大阪の再開発の動きが各方面から注目



海側からの万博バビリオン

対策で持ち物検査に時間がかかるのは仕方ないと理解しながらも、猛暑の中、日よけのないゲートに並ぶのは厳しいと感じました。

パビリオンの予約は取れませんでした。カタルーニアやポルトガル館など予約なしで入場できるパビリオンを幾つか回り、あまり馴染みのない国の文化に触れることができました。また英国館のイングリッシュガーデン風の展示は、暑さの中でも美しくディスプレイされ、非常にすばらしい仕上がりと感じました。

また、あの猛暑の中「大屋根リングを一周回ってき



英国館とイングリッシュガーデン

大阪万博は入場ゲートの混雑などを考慮して団体入場を取りやめ、各自で入場するように変更となりました。私は9時入場のチケットで9時頃に夢洲の東入場ゲートへ並びました。並ばない万博のはずが入場できたのは50分後くらいだったのでしょうか。セキュリティ

地方かわら版

振り返って

北海道支部長 大森 康雄
(南十勝大森牧場・北海道)

平成3年1月に植木協会の入会して以来、早いもので34年になりました。東時、北海道での植木協会会員の3社園程で、各社園への入会の御挨拶に行った時、先輩諸氏が植木協会は親睦



ガーデンテラス

気候でも丈夫に育つ宿根草を探すためにカナダやアメリカのナーセリーを訪ねて回った時、オレゴン州で開かれていたナーセリーショーで偶然、北米視察途中の植木協会の会員諸氏に出逢ったことも忘れられない思い出です。

また広報委員として活動した事や北海道・東北ブロックや青年部の総会で宿根草についてお話をさせていただいた事もあります。そのことは自分自身の後、各地で公演をする



団体で研修や総会に行き各地の様々な会員の会話が楽しみであるという言葉がとても印象深く残っています。実際、私も協会やブ

の総会で名刺交換や情報交換、現地視察や宿泊場所での楽しいお酒を飲んだことが良い思い出になっています。そして、私どもの農場やガーデンも研修先としてお訪ねいただき、様々なアドバイスを貰えたことはそういった事もあります。そのことは自分自身の後、各地で公演をする



うめきた公園で全員集合

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて

②9ウサギギク

小岩井農牧(株) (岩手県)

足澤 匡

「ウサギギク *Arnica unalaschensis* var. *tschonoskyi*」って、知っていますか？ 見たことがありますか？ 本州～北海道に自生している高山植物なので、登山やハイキングの趣味があれば、見る機会があるかも知れません。私が初めて出会ったのは、映画でも有名な青森県の八甲田山(はっこうださん)での植物観察会でした。案内してく

れた高山植物の先生が、「ウサギによく似てるでしょう!」と、黄色い花を指さして言ったのです。私はつい「どこが!」心の中で突っ込みました。どう見てもキク科の花にしか見えなかったのです。詳しく話を聞くと、「花の下に付いている葉が対生で、ウサギの耳に見えるでしょう」。いや、黄色い花が風にそよぎ目立っていて、対生の葉が目が行きませんでした。また、「ウサギの耳に見える」ということよりも「キク科で対生?」の方が衝撃的で・・・。「キク科の中で、他に対生の植物があるか?」 その方が気になってしまい、頭の中がグルグル、混乱していたのです。後で調べてみると、キク科の対生は少数派で、センダングサの仲間などが該当します。スケッチを描きながら、「花が無ければ、ウサギの耳に見えないこともないのかな～」などと考えたことを思い出します。

ちなみに、キク科の花は、小さな花が集まった頭状花序(とうじょうかじょ)です。小さな花の花弁は1枚なので、キク科の植物はすべて合弁花なのです。幼い頃、マーガレットなどで、花占いをしてませんでしたか? 花占いは是非「好き」から始めて下さい。花びら1枚ですから・・・。いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。



ましたと笑顔で話す部会員の皆さんの耐暑性の強さにも驚きました。飛行機の都合で早めの帰路につきました。時間があればもっと多くのパビリオンを回りたいと思いましたが、1日では時間が足りないと思えるほど見どころがたくさんあり

ました。懇親会にはすべての参加者が出席され、冷たい飲み物でのどを潤し、和やかな時間を共に過ごし親睦を深めることとなりました。2日間とも好天に恵まれたものの、最高気温が35度を超える猛暑日となりました。

炎天下の徒歩移動に心配もありましたが皆様のご協力があり無事日程を終えることができました。今後も部会員の皆様には、勉強・情報収集・懇親の場として研修会を積極的に活用いただければ幸いです。

ルポ

シリーズ 社園さん紹介

No.29

(株)桜井農園

栃木県(那須塩原市)



左から社長の桜井一郎さん、大野尚磨さん、お父様の桜井功一さん、お母様の桜井すみ子さん

取材中、風が気持ちよく、畑でずっとウグイスの声が聞こえた那須塩原。火山灰の養分を含む水はけのよい土壌は植木生産に最適な土地。「Made in 桜井農園」と代々受け継いだ木々を種から育てている社長の桜井一郎さんを紹介します。

畑にはどのような木を生産しているのですか？

社長の桜井一郎さん：「うちは生産のみでドウダンツツジを主にアオダモ、アオハダ、シャラ、ヒメシャラ、ヤマボウシ、モミジ、カツラ等の低中木をメインに9、10町歩の畑を3人とアルバイト3人で作っています。最近は植栽の場所が狭いところが多いので、1人でも持ち運び出来る2～4m位までのものが多くなっています」。



高木の下でのドウダンツツジ



柔らかい樹形に



12年ものの本株アオダモの畑



ヤマボウシ本株の広い畑

この植木たちは、どうして日陰に植栽しているのですか？

一郎さん：「今実験しているんです。やわらかい自然型が好まれるので高木の下にドウダンツツジを植えて、木陰の下でどんな樹形に育つか試しています。また、植栽間隔を狭めているので横には広がらず縦に成長し、縦長に優しくふんわりとしたロウソク形になっています。子どもと同じで、出荷後も今と同じ日陰の慣れた環境で育てるのがベストです。植物も子どもも環境は大事です」。

株立ちを作るのですね？

一郎さん：「この畑は株立ちのアオダモが1,000本程あります」…植木は野菜と違って、出荷するまで何年、何十年と時間が掛かりますね。



1,000本のアオダモ寄せ株畑

下から覗いて見ると奥まで広いですね。

一郎さん：「今まで畑で樹木を下から見たことないで(笑)。ここは10年もので、今年に全て出荷予定です」。

トトロの裏山のトンネルみたいですね。メイちゃんが出てくるかも？(笑)

一郎さん：「メイちゃんが出てこないですが、最近はいノシシが出るようになり根元を掘り返したり苗木を抜いてしまったりするので困っています。最近地球温暖化のせいか、過去にない病気が発生したり害虫が多いです。特にカミキリが多く、ヤマボウシやアオダモにも入るので、まめに殺虫剤を撒かないといけません」。

家業を継ぐ前はどこかで修行を？

一郎さん：「はい。当時は“料理の鉄人”という番組が流行っていて調理師の修行を」…え？と聞き返してしまいました。

一郎さん：「実は新宿の洋食屋で調理師をしていました。私は妹しかいない田舎の長男だったので、いつかは実家に戻らなくてはと考えてました。24、5歳頃、徐々に友達が実家に戻っていき、遊ぶ友達がいなくなったタイミングで私も実家に帰りました。その頃は楽しかったのですが、お金も沢山使いました」…修行先が想定外でした(笑)。

お子さんはパパの料理が食べたいと言わないですか？

一郎さん：「妻に怒られるから言わないです(笑)。男の料理は高い食材を使って、それを調理する。だから美味しいのは“当たり前！”ってことです。妻は冷蔵庫の余りものや節約しての料理です。幸い、妻は料理が好きみたいなので美味しく頂いています」。

会社の業態は？

一郎さん：「出荷時期以外は土日祝や雨の日など休みにしています。最近は温暖化のせいか、夏日が続くので落葉時期が遅くなっていて、今まで秋に出来ていた出荷準備が12月までずれ込んでしまいます。さらに温暖化で春の芽吹きも早くなり、4月初旬の出荷までの1、2、3月が非常に忙しくなっています」。

植木屋さんをしてよかったことは？

一郎さん：「私は実家に戻ってからは植木生産オンリーです。でも、青年部会で幹事や支部長をしていた6年間は忙しかったのですが、今思うとすごく楽しかったです。その頃から取引先も増えて今があると思っています」。



青年部幹事だった頃の緑育



中央が体の大きい力持ちの桜井さん

従業員の大野さんにお聞きします。6年間続いている理由は？

大島さん：「働きやすく人間関係もいいですし環境がいいです。挿し木や植木の成長を見れることは楽しいです。根巻もなかなか出来ず、今でもこれで大丈夫かな？と思ってしまいます」…すみさんにきれいに巻けてると褒められてました。



一山を購入してその材木で建てた趣のあるお家



一面に苔を敷き詰めたお庭

お母様のすみさんにお聞きします。趣のある素敵なお家とお庭ですね。

すみ子さん：「祖父が家を作る材料のために一山購入して建てたんです。細部にもこだわって、渡り廊下ばかりで私は掃除が大変なんです(笑)。庭の苔も一面に夫が張ったんです」…まるで寺院のようです。

失礼ですが、かわいらしくてバリバリ植木のお仕事をしているようには見えないのですが。

すみ子さん：「子どもたちが幼稚園を卒業する頃から始めて、除草剤を散布したり、挿し木や根巻もしてましたが、今は息子がやってくれるので助かってます。昔から家に居るより、みんなと一緒に外で働いた方が楽しいんです。私もまだあてにされているようなのでもう少し頑張ろうと思います」。

お父様の功一さんにお聞きします。今は何をされているのですか？

功一さん：「今、私は太陽光発電の仕事をしているので、植木は完全に息子に任せています」。

一郎さん：「任されている分、自分で考えるのでやりがいも出ます。東京にいく時も、父は好きなことを、社会勉強をしきなさいというスタンスでした。東京で自由にさせてもらったから、植木屋さんのいい所も理解ができ、今があるのだと思います」…太っ腹、肝っ玉のご両親ですね。

今後どのようにしたいですか。

大野さん：「私はまだ根巻などに時間が掛かってしまいます。私が1つ根巻する間に、桜井さんは1.5個位作っていますので、競争でないですが、少しスピードを上げたいです」。

一郎さん：「最近は昔と違って色々な種類を求めてきますから、これからは少量多品種を作って、色々な用途のお客様に対応できるようにしたいです」。

地方かわら版

長野県支部長 上条 祐一郎
(株)丸八種苗園・長野県

長野県支部にはよく目立ったニュースもないので、今回は長野県の苗木生産について現状を書いてみます。

長野県支部では、現在、協会員5社中3社が山林種苗の生産にも関わっています。当社も、かつての拡大造林の終了とともに山林種苗をやめて緑化木に転向したのですが、12年ほど前から再び山林種苗の生産も始めています。

いま長野県で生産が多い樹種はカラマツで、樹種別生産量の60%近くを占めます。生長が早いことから戦後多く植林されたカラマツは、材にした時に狂いが出やすいため長らく使われずにいたものの、合板に利用

すると軽くて強度が出るということで見直され、近年は需要が増えている経緯があります。家づくりのスタイルが、柱を見せる建築から、柱は隠して見えない建築に変わったこともあるでしょう。円安によって輸入材が値上がりしたことも、国産合板の需要が増えた要因と思います。



算がついているためとされます。長野県でも森林税を利用して、再造林に関わる費用の全額を補助する制度がはじまっており、県の再造林面積を10年後には約3倍に増やすという目標を掲げています。

需要の増加を受け、コンテナ苗と呼ばれる、大型のプラグ苗のような形状の苗木が生産が増えていて、山に行っても成長を止めないために、栽培技術の向上も年々進んでいます。例えば、樹高が規格に達しているだけでなく、根元がしっかりと太い苗、根がすぐ外に伸びる根鉢のほどよい硬さ、蒸れておらず下枝のしっかりある苗作り、などです。

こう書くとうまいことばかりのように感じますが、実際は課題も多くあります。一つ目に人手不足です。とくに伐る方が計画通り進んでいないため、植林に影響が出ています。国有林も不落が頻発し、事業を翌年以降に遅らせながら進んでいるのが現状です。

二つ目に、種子の問題です。カラマツの種子は年によって豊凶が大きく、およそ10年に一度くらいの豊作年しかないため慢性的に不足しています。県の母樹林は長年手入れがされてこなかったために、うっそうとした老木となり、ほとんど種が採れていません。県は再造林が増えることが見込まれてから新しい母樹林を作りましたが、まだ種が採



れる樹齢になっていません。その結果、苗木生産の新規参入希望があっても、種が足りない状況です。

三つ目は大企業の参入です。山林種苗の需要は長らくピーク時の20分の1くらいまで落ち込んでいたため、家族経営の零細企業が多く、ほとんど生産がなくなってしまった他県では、大規模な設備をもつ大企業の参入が進んでいます。しかし大手の寡占状態になってしまつことに私は危うさを感じます。なぜなら家族経営の小規模生産者は、儲かる樹種だけでなく、広葉樹や成長の遅い樹種など多様な苗木の生産を支えてきた現状があるからです。大手は儲かる樹種しかやらないため、寡占状態となって小規模生産者を駆逐すると、繁殖の技術は途絶えるかもしれない。そうなる、たとえば接木の台木が確保できなくなるなど、緑化木業界や園芸業界にも多くの影響が出てくるでしょう。

私も一旦山林種苗を離れた組ですから、需要が落ち込んで苦しいときも、その技術と産業を守ってきた苗木生産者に敬意を感じています。すぐに解決が難しい様々な課題がありますが、将来を見据えて、生産者同士協力しながらやっていければと思います。

残暑お見舞い申し上げます。



会長

佐久 定規

(有)千代田緑地

〒315-0056
茨城県かすみがうら市 上稲吉1830-3
TEL: 0299-59-2214
FAX: 0299-59-5075
E-mail: chiyoda-ryokuchi@oguogu.jp

副会長

辰巳 広之

(株)植広園

〒664-0002
兵庫県伊丹市荻野1-175-2
TEL: 072-770-3847
FAX: 072-770-5284
E-mail: tr-farm.on.06@w6.dion.ne.jp

副会長

生駒 順

生駒植木(株)

〒244-0004
神奈川県横浜市戸塚区小雀町1805
TEL: 045-851-1805
FAX: 045-852-6068
E-mail: matsu-tora@ikoma-ueki.co.jp

副会長

石井 新次

石井農園

〒245-0016
神奈川県横浜市泉区和泉町7565
TEL: 045-802-9033
FAX: 045-802-5983
E-mail: info@ishiinouen.jp

理事

真鍋 憲太郎

真鍋庭園苗畑

〒080-0832
北海道帯広市稲田町東2線6
TEL: 0155-48-2120
FAX: 0155-48-2169
E-mail: mobile@manabegarden.jp

理事

大久保 吉広

(有)猿島ガーデン

〒306-0504
茨城県坂東市生子1847-1
TEL: 0280-88-0073
FAX: 0280-88-0697
E-mail: info@garden-s.co.jp

理事

栗原 隆治

(有)栗原緑地

〒336-0976
埼玉県さいたま市緑区寺山1736
TEL: 048-878-1355
FAX: 048-878-2723
E-mail: kurihara-r@jcom.home.ne.jp

理事

黒田 晴彦

(有)美好緑化

〒441-3301
愛知県豊橋市老津町字東高縄154-2
TEL: 0532-23-0835
FAX: 0532-23-1345
E-mail: kuro89507855@gmail.com

理事

橋本 幸夫

橋貞園芸

〒492-8342
愛知県稲沢市矢合町1407
TEL: 0587-36-2020
FAX: 0587-36-4191
E-mail: scebai@topaz.plala.or.jp

理事

小島 幹央

(株)京都芳樹園

〒615-8267
京都府京都市西京区山田北山田町39
TEL: 075-381-3167
FAX: 075-392-8055
E-mail: m-kojima@hojuen-gc.co.jp

理事

内山 淳

(株)山都屋

〒703-8273
岡山県岡山市中区門田文化町2-11-51
TEL: 086-272-2161
FAX: 086-272-2142
E-mail: yamatoya@po.harenet.ne.jp

理事

古賀 尚樹

愛花夢(株)

〒839-1205
福岡県久留米市田主丸町船越750-2
TEL: 0943-72-1522
FAX: 0943-72-1534
E-mail: icode@r7.dion.ne.jp

理事

西郷 純一

西郷農園

〒899-0216
鹿児島県出水市大野原町1890
TEL: 0996-62-0638
FAX: 0996-62-6986
E-mail: saigo-noen@abelia.ocn.ne.jp

監事

内田 耕一郎

曼珠苑

〒182-0017
東京都調布市深大寺元町3-30-3
TEL: 042-484-3115
FAX: 042-487-4884
E-mail: manjuen@sage.ocn.ne.jp

監事

小畑 勝裕

(有)伸松園

〒434-0031
静岡県浜松市浜名区小林329
TEL: 053-586-2819
FAX: 053-586-5972
E-mail: sinsyoen@cello.ocn.ne.jp

シリーズ 女性樹木医 奮闘記①

東京大学田無演習林で行われている苗木生産の学生実習

日本樹木医会／東京大学演習林 相 川 美絵子

皆さんは「演習林」をご存じでしょうか？ 自衛隊と勘違いされたりしますが（それは演習場です）、このような古風な呼び名なのは130年ほど前にできたからだと思います。最初の演習林は千葉県清澄に設置されました。大学等が森林の実習や研究をすることが目的の林で、近年は教育・研究にとどまらず、公開講座など一般の方が訪れる機会も増えています。

全国27大学が演習林を所有しており、私の所属する東京大学演習林は、北海道から愛知県まで全国に7か所あり、総面積約32,300 ha、日本の面積のおおよそ1,000分の1を占めます。

その中の1つである田無演習林は、東京大学の演習林の中でいちばん小さく8 ha あまりの広さですが、東京23区に接する西東京市に位置し、周囲が市街地化する中でポツンと残された貴重な森林になっています（写真1）。

森林科学専攻に進んだ3年次の学生が、最初に苗木生産に関する実習を行うのがこの田無演習林です。造林樹種の播種、床替え、接ぎ木や、栽培品種（あるいは品種）の挿し木の实習は、田無演習林が設立されて2年後の1931（昭和6）年から続く歴史の長い学生実習です。

播種の実習は、当演習林内で採種したアカマツ、クロマツの種子を使います。学生1人につき1㎡の播種床をあてがい、まず木の板で土を砕いて整地します。この時、過湿にならないよう中央がやや高くなるようにします。なるべく均一に種子を播きつけたのち、ふるいで薄く土をかぶせ（写真2）、木の板で床固めを行います（写真3）。以前カラスに種子をいたずらしたことがあったので、ネットをかけて防ぎます。3週間くらい経つと発芽してきますが、タイミングが良いとマツの葉の先端に種の殻が付いた、かわいらしい「泡立て器」を見ることができます（写真4）。

床替えは、前年度の学生が播種したマツの1年生苗を使います。播種したまま

だと苗が密集しており養水分や光が十分得られないため、成長を促進させるため等間隔に植え直します（写真5）。

接ぎ木の実習では「割りつぎ法」という手法を採用しています。切り出しナイフで台木の中央を割るように切り、そこに同じく切り出しナイフで楔形に整えた穂木を差し込みます（写真6）、形成層を合わせて接ぎ木テープで固定、保護剤を塗布して乾燥を防ぎます。切り口が滑らかなほど活着しやすいため、よく研いだ切り出しナイフを準備しますが、以前は学生が指を切るのが風物詩のようなものでした。最近は説明時の安全指導を徹底し、耐切創手袋を着用させることで、怪我をする学生もいなくなりました。

挿し木の実習（写真7）は、樹種ごとの発根しやすさを調べるため、複数の樹種を選びます。挿し穂の元を切り出しナイフで斜めに切って形成層を露出させ、赤玉土と鹿沼土を混ぜ合わせた保水性と通気性のよい土に挿します。挿し穂は根がないため、蒸散を抑えるよう挿し穂の葉の量を少なくし、挿し木床に日除けを設置し、頻繁に水やりをします。無事に発根し、植木サイズまで育てた苗木は、森林科学専攻の4年生が五月祭（東京大学の学園祭）で植木市を出店し販売していました（写真8）。近所のリピーターも多かったらしく、東大生から植木のうんちくや、学生生活の話などを聞きながら購入する楽しさがあったと思います。先輩から後輩へ植木販売のノウハウが引き継がれていたのですが、コロナ禍で途絶え、残念ながら今は行われていません。

このように田無演習林で90年以上前から脈々と受け継がれている学生実習ですが、森林を学ぶ東大生にとって貴重な体験として心に残ることと思い、毎年新たな気持ちで学生を迎えています。



写真1 田無演習林の樹林を望む



写真2 播種の実習での覆土



写真3 播種の実習での床固め



写真4 泡立て器のようなマツの芽生え



写真5 床替えの実習



写真6 割りつぎ法による接ぎ木（スギ）



写真7 挿し木の实習



写真8 五月祭での植木市



日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション*

フヨウ

問い合わせ 山崎隆雄（株）ワイズプランツ（埼玉県） ☎048-875-2155

立秋を過ぎ、五山送り火が灯される頃に盛りを迎え、見事に咲き誇るフヨウ。

初夏から勢いよく伸ばす新しい枝の先に、桃色の花を房状に咲かせる。大きく広がる花は一日花で、束生した花が次々と開花し、開花期が長く観賞価値が高い。平安時代に中国より渡来し、庭木などとして親しまれてきた。

「芙蓉」とは、中国ではハスの花を指しているが、フヨウの花がハスのように美しいことから「木芙蓉」と呼び分けるようになった。また、「芙蓉峰」とは、富士山の優美さを表した別名となっている。

「枯れ芙蓉（かれふよう）」とは、花が終わり、やがて枝先に裂開した果実が残った姿を観賞する文化である。俳句では冬の季語となっている。



フヨウ



フヨウ白花



枯れフヨウ

※ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

青年部会だより

幹事 山 中 康 太
(山中育樹園(株)・兵庫県)

兵庫県の伊丹市で、山中育樹園という園芸店、造園の専門店を営んでいます。私たちは、植物を「一本単位」で販売するのではなく、「空間の一塊」としてご提案、販売することに取り組んでいます。これからの時代に求められる庭や植栽のあり方を見据え、3DCGを活用した設計・提案手法を取り入れながら、新たな取り組みを日々進めています。



まず、お客様の敷地は、3Dスキャナを用いて実際に現地を撮影・計測し、そのデータをもとに正確な尺寸で再現された仮想空間を構築します。地形の起伏や周辺環境も含めた空間を、リアルに再現することができ、従来の図面や手描きパースでは伝わりにくかった空間の広がりや高さ関係なども、直感的にご確認いただけます。

この仮想空間に、弊社で制作した樹木の3Dモデルを配置していきます。これらのモデルは、育成中の自社圃場の木や、協力農家や造園の現場で撮影・記録した樹形なども取り



入れながら、一本一本丁寧に形づくられたものです。3Dモデルを自社で制作しているため、日本の住宅で実際によく使われる樹種や、人気のあるトレンドの樹形を、タイムリーに設計へ反映することが可能です。

ご契約後は、完成イメージに最も近い実物の樹木を私たちが責任をもって選定し、実際に植え込んでいきます。こうした一連の流れにより、お客様と私たちのイメージのずれがなくなり、完成後の満足度も高まっています。

柱前の植栽」や「お庭の一角」など、空間ごとにまとめた提案、価格設定を行っています。樹木は一本一本が生き物であり、単体で見たとときと空間に配置したときでは印象が大きく異なります。だからこそ、完成イメージをあらかじめCGで共有することで、安心してご契約いただけるだけでなく、「この場所に、この雰囲気の木がほしい」といったご要望にも、より的確にお応えできるようになります。



日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション*

ヤブコウジ (藪柑子) *Ardisia japonica*
サクラソウ科 ヤブコウジ属 常緑小低木

問い合わせ 竹本祐子 (有)竹本園 (鳥取県) ☎0858-88-0233

「やぶらこうじのぶらこうじ」
落語「寿限無」のおめでたい名前に出てくるこのフレーズは、ヤブコウジのことで、「十両」とも呼ばれ、お正月飾りなど縁起の良い植物として古くから親しまれてきました。
ヤブコウジは山地の木陰に自生し、冬に向かって赤い果実を付けます。
日影のグラウンドカバーとして最適で、クリスマスカラーも相まって、和洋を問わず利用範囲は広いです。
園芸品種も多く、江戸時代には大きなムーブメントを引き起こした縁起植物です。

----- ヤブコウジ黄金花 -----



ヤブコウジ黄金花



ヤブコウジ亀の子



ヤブコウジ三保の松



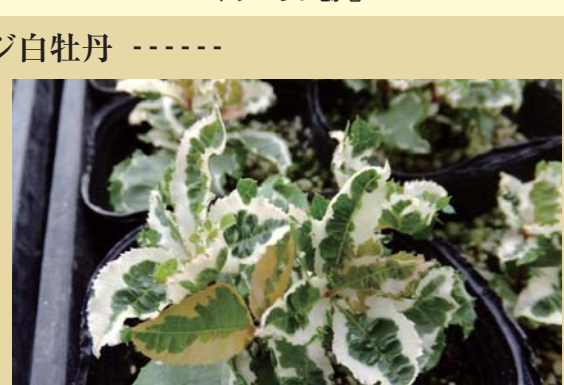
ヤブコウジ鶴亀



ヤブコウジ白王冠



ヤブコウジ紅雪



ヤブコウジ辻が花



ヤブコウジ天の川



ヤブコウジ日の出



ヤブコウジ白牡丹

*ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

連載「植物園だより」

第5回 みんな大好き食虫植物

しまだ ゆきこ
咲くやこの花館 島田 有紀子



◆プロフィール
広島市植物公園勤務ののち、現在は大阪市の咲くやこの花館に勤務。大阪府立大学大学院農学生命科学研究科修了。博士（農学）。ペラルゴニウム属やペゴニア属などの鉢花や草花一般に造詣が深く、特に変わり葉ゼラニウム研究の第一人者。「NHK 趣味の園芸」の番組・テキストや、各地での講演など家庭園芸ファンへの普及に日々努めている。「NHK趣味の園芸 12か月栽培ナビDo花苗をふやす タネまき・さし木・株分け」など著書多数。

多くの植物園が夏休みに開催する人気イベントのひとつに食虫植物展があります。咲くやこの花館では「虫を食べる植物展」という名称で開催しています。

大人顔負けの知識を持った食虫植物博士の子どもたち。もちろんその魅力に取りつかれているのは大人も同じ。食虫沼にハマったら抜け出せないのは虫だけではなくさそうです。

食虫植物とは、読んで字のごとく、「虫などの小動物を捕まえ、栄養として取り込む植物」。ふつうの植物（食虫植物ではない植物）から突然変異によって、食虫性という新しい機能を持った遺伝子が生まれ、進化してきたと考えられています。

一般に、植物は葉で光合成をおこなってデンプンなどの有機物をつくり、根からはチッ素やリンなどの養分を吸収して成長に利用しています。同じように食虫植物も光合成をおこないますが、葉が袋状になったり毛が生えたりしているため、ふつうの植物よりも光合成効率が劣り、生存競争に勝てません。虫などを捕食して栄養をおぎなうことで、根から十分に栄養が得られない湿地や岩場のようなやせた土地で競争に勝ち、生きのびてきました。

さて、誰もが知っている食虫植物の代表格といえばハエトリソウではないかと思います。植物は生き物なので当然動いているのですが、このハエトリソウは目の前で瞬時に動くので、惹きつけられます。

二枚貝のような葉はふだん開いていて、内側には虫が触れたことを感じる感覚毛が片側に3本ずつ、計6本生えています。虫を待ち構えているときには葉は両側とも凸状に反っていますが、虫が30秒以内に感覚毛に2回触れると、瞬時に凹状に曲がって閉じ、虫を挟みこんで捕まえます。閉じた瞬間は2枚の葉の内側にはまだ空間があって虫は動くことができますが、あばれて感覚毛を刺激するうちに、葉がそれを感じ取って次第に強く閉じていきます。加えて、葉のふちから粘液が出て隙間がふさがれます。そして虫を押しつぶし、葉の内側から消化液を出して分解し、吸収します。なんとも恐ろしい植物ではないですか！ 1週間ほど経って虫を消化、吸収し終わると再び葉が開いて次の虫を待ち構えます。

そのほか、葉の表面にある多数の腺毛からネバネバした粘液を分泌し、葉の上にとまった虫を捕まえるモウセンゴケやムシトリスミレの仲間、甘い蜜やにおいを出して虫を誘い、袋状または筒状に変化した葉の中に落とし込むサラセニアやウツボカズラの仲間、そして水中や湿地に生育し、袋状になった葉の中に微生物



サラセニア・レウコフィラ '伊勢ローズ'

などを吸い込むタヌキモやミミカキグサの仲間、食虫植物はまるで手を持つかのようにあの手この手で虫を捕まえます。

なお、日本語では食虫植物と言っていますが、英語ではカーニボラス・プラント（Carnivorous Plants）といい、直訳すると「肉食植物」になります。虫だけを食べるわけではなく、例えばウツボカズラの中にはカエルやネズミなどの小動物を食べる種類もあります。一方、肉食ではなく落ち葉から養分を得るウツボカズラや、消化酵素をもたないロリデュラという食虫植物は葉で捕まえた虫を食べるカメムシの排泄物から養分を吸収するなど、多種多様です。

最後に、食虫植物には育てやすい種類があり、園芸化も進んでいますが、絶滅危惧種やワシントン条約（絶滅の恐れのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）で国際取引が規制されている種も多くあります。食虫植物は他の植物との競争を避けて栄養の乏しい環境で生育していますが、こういった場所は開発の影響を受けやすく、タヌキモやミミカキグサ、モウセンゴケが生きられなくなっているという現実もあります。

一方で、生育地を拡大していく食虫植物もあります。外国産の食虫植物が人の手によって持ち込まれて帰化し、ナガエモウセンゴケのように特定外来生物に指定されて法律で駆除対象になっている種もあります。外国産だけでなく、国内由来の外来種も逃げ出して定着している現状があり、もともとその地域にはいなかったものという点では外国産と変わりなく、在来種の生態系に大きな被害を及ぼす可能性があります。



ハエトリソウ。感覚毛に1回触れただけでは葉は閉じず、2回の刺激で閉じる。

食虫植物を家庭で大いに育てていただきたいのですが、野に放つことはやめましょう。生物は生態系の微妙なバランスを保って生きています。これを守るために生育地そのものの保全が不可欠です。



【創立55周年 記念植樹（令和7年1月28日）】



令和7年2月1日の中部新聞、静岡新聞に掲載

静岡県浜松市立大瀬小学校の創立55周年記念植樹が1月28日に行われました。

6年生は、総合的な学習の時間に「大瀬小の歴史」の学習をしています。大瀬小は今年で55周年になります。学校の歴史を調べていると、創立40周年記念で植えたトチノキが害虫に食われ枯れてしまったことが分かりました。大瀬地区とトチノキは、和歌山県から来た榎木さんが「とちのき地区」に住んだ時のからの長い歴史があります。そこで、トチノキを植えることで大瀬小と地域のとのつながりがより深まると考え、植樹をすることになりました。6年生が卒業して、今の1年生が6年生になったとき、創立60周年になります。その時に、今の1年生が、このトチノキと一緒に創立60周年を迎え、心も体も大きな実をつけてもらいたいという思いを込めて植樹をしました。

6年生の記念植樹実行委員が中心となり、事前に木を植える場所の草取りをしたり、当日の式典に向けて準備をしたりしました。

記念植樹に向けて、PTA役員さんが日本植木協会に働きかけをしてくださいました。そして、日本植木協会「記念樹等植栽事業」によりヤマキ種苗園の村松さんに協力いただき、この記念植樹が実現しました。ありがとうございました!!!浜松市立大瀬小学校のHPより



記念樹等植栽事業 浜松市立大瀬小学校 創立55周年「記念植樹」（1年生と6年生）

連載「多肉・珍奇植物」

第14回 小型ながら葉の色彩・模様が美しく存在感は抜群、 パルダリウム界限でも人気のクリプタンサス

東京都市大学環境学部教授 飯 島 健太郎



◆プロフィール

東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医用工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料／多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

古くから栽培されているアナナス類にクリプタンサス(*Cryptanthus*)属の仲間がある。1960年代頃にネオレゲリアをはじめとしたプロメリア系の植物が一部の趣味家に注目され始めたが、この時期に導入されたものと思われる。観葉植物界に広がりを見せたネオレゲリア、多肉植物マニアに愛好されたティランジアなどメジャーな種に比較して、クリプタンサスの普及は今一つであった。

和名ではヒメアナナス属と称され、小型で極茎が短く、ロゼットを形成して地表付近に葉を広げる。細長い葉はごわごわとして硬く、先端は反り返っている。葉縁は波状になり、鋸歯が目立つ。葉面には緑や褐色系の地に縦横の縞が入り、強く紅色を呈するものや黒色となるものなど、美しく存在感のある品種も多い。ブラジルの森林に20種ほどが自生している。比較的乾燥した森林に自生しているものの、肥沃な土壌を好み森林内の平らな地表面、岩上などにも生育する。開花後種子が形成されて繁殖するが、自然環境下では栄養繁殖もしばしば生じているという。すなわちその形態が、成長と共に脇芽が形成しやすく群生するが、この脇芽が外れやすいことによる。葉には鋸歯や棘が多く、これは動物の足などに引っかかりやすくなっており、これにより脇芽が外れて周囲に分散している。

色彩とともに斑点模様、縦縞模様などの美的観点からの育種も行われており、性質は成長が緩慢なもの、乾燥を好むもの、湿気を好むものなど多様性がある。こうした特徴を持つクリプタンサスが趣味対象として広く認識された時期は、グーグルトレンド機能による

検索傾向からビジュアルプランツが注目され始めた頃、すなわち華々しくプロメリア類が雑誌に掲載された時期と一致する(図1)。同じ頃、隣接領域のレインフォレストプランツ(雨林植物)の人気も上昇しており、その様相は「雨林植物」の検索傾向からも読み取れ



写真1 パルダリウムに配植されたクリプタンサス

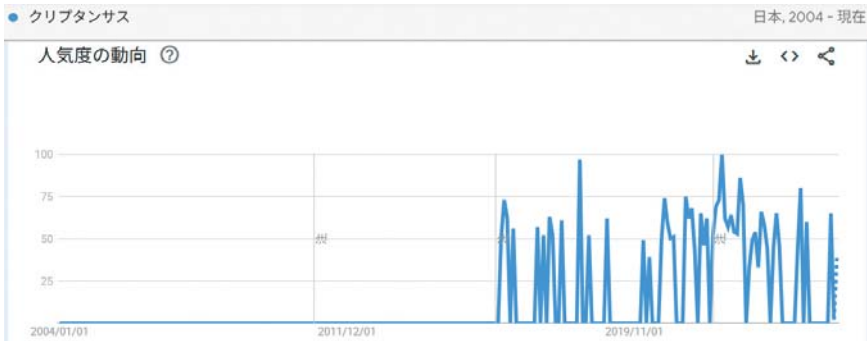


図1 グーグルトレンド機能による「クリプタンサス」の検索傾向

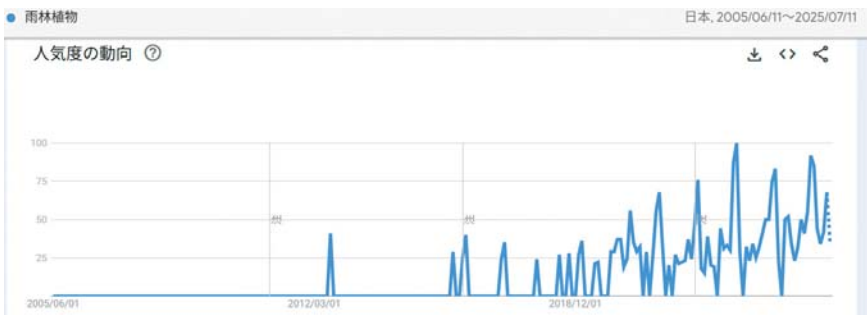


図2 グーグルトレンド機能による「雨林植物」の検索傾向



図3 グーグルトレンド機能による「パルダリウム」の検索傾向



写真2 クリプタンサス・ビッタータス 'レッドスター'



写真3 クリプタンサス アカウリス 'ジェイド'

る(図2)。レインフォレストプランツと言え、パルダリウム(高温多湿の熱帯雨林の環境を再現し、陸地と水辺両方に生息する動植物を取り入れた飼育環境)の配植材料としてもしばしば導入されており、色彩のコントラストを演出しやすく、大きく育たないクリプタンサスはパルダリウムの素材として好まれている(写真1)。前述の「クリプタンサス」、「雨林植物」の検索傾向と同様に、「パルダリウム」も同時期から伸びを示しており(図3)、むしろ周辺領域から波及して「クリプタンサス」の認知が広がったと見ることもできる。

クリプタンサスの代表的な普及種は、ビッタータス(*Cryptanthus bivittatus*)やアカウリス種(*C. acaulis*)、そしてその品種群であろう。茎はほぼ無くロゼットを形成し高さはわずか15~20cmほどの小型である。中程度の光または拡散光を好むため、観葉植物としての鉢物からテラリウムの素材としても用いられてきた。レッドスター(*C. bivittatus* 'Red Star')は紅色が美しく、パルダリウムの素材としても人気だ(写真2)。その色彩とは対比的にジェイド(*C. acaulis* 'Jade')は混じりけの無い明るい緑色の葉が爽やかだ(写真3)。

クリプタンサス・ゾナタス(*C. zonatus*)は「ゼブラプラント(Zebra plant)」とも称されるように、少し毒々しい均一な縞模様の葉が特徴である。その葉はフリルのように波打っているため絨毯や毛皮のような独特の見た目である(写真4)。

クリプタンサス・フォステリアヌス(*C. fosterianus*)は、葉に白から灰色の縞模様が波打つように広がっており、やや大きく成長する(写真5)。同品種のエレーヌ(*C. fosterianus* 'Elaine')は、銀白色の横縞模様に入る葉がピンクに色づいて美しい(写真6)。

従前のクリプタンサスの流通量はさほど多くなく、スペースをとらない室内園芸用に2~3寸の鉢物として観葉植物農家により生産されてきた。昨今では、プロメリア類の人気に乗じて専門業者が扱っており、多様なメニューの一つとしてクリプタンサスの普及種から希少種、さらには改良品種が流通するようになった。加えて、パルダリウムなど配植用の植物需要からもその界限で細々つくられているという実態もある。ビバリウムの世界では、飼育対象への影響が無いよう無農薬の水草等が供給されているが、陸生の配植素材も同様の需要があると考えられる。園芸鉢物としての普及のみならず、配植素材としての色彩豊かで多様な小苗の生産、そしてビバリウムの分野に生体への影響の無い無農薬生産品を安定的に供給なども期待されるところである。



写真4 クリプタンサス・ゾナタス



写真5 クリプタンサス・フォステリアヌス



写真6 クリプタンサス・フォステリアヌス 'エレーヌ'の葉

お知らせ

植生管理士認定試験

当協会及び東京農業大学「みどりの環境創造研究部会」は植生管理士認定試験を以下の通り、実施いたします。
筆記試験: 10月18日(土) 13:30~15:30
東京農業大学 1号館113教室
技術試験: 11月8日(土) 13:00~16:00
横浜自然観察の森(神奈川県横浜市長区上郷町1562-1)

会員動向

代表者・住所・電話・FAX変更

▷大島緑地
(新) 大島淳一 (旧) 大島勇
住所: 〒286-0211
千葉県富里市御料1025
TEL043-442-3981 FAX043-442-3981

代表者変更

▷(新) 池田智範 (旧) 濱松陽一郎
グンゼグリーン(株)(兵庫県)
▷(新) 大村秀樹 (旧) 大村誠司
(株)清光園芸(岡山県)

住所・メールアドレス変更

▷(株)柏松園
住所 〒731-3362 広島県広島市安佐
北区安佐町大字久地3520-76
TEL082-576-7543 FAX082-837-2534
e-mail ma.kuramoto@hakushoen.co.jp

退会

▷(株)野尻緑産(福島県)
▷(有)小川産業(千葉県)
▷田中萬開園(福岡県)

訃報

▷山中栄子 様
(山中誠次氏のご母堂様)
山中育樹園(株)(兵庫県)
令和7年7月19日没 享年91歳
▷山崎ミサ 様
(山崎雄造氏のご母堂様)
(有)みどり産業(栃木県)
令和7年6月24日没
▷駒井房江 様
(駒井正治氏のご母堂様)
駒井萬葉園(京都府)
令和7年6月9日没 享年92歳